

プレスリリース

山口情報芸術センター (YCAM)



meets the artist 2007 「一冊の本をみんなで作る」

公開対談シリーズ # 1

「進化する伝統」

— 300年後の大内人形 —



山口情報芸術センターでは、市民長期参加型企画である「meets the artist 2007 一冊の本をみんなでつくる」の活動の一環として、哲学者である吉岡 洋さんと、山口在住の大内塗職人 小笠原貞雄さんとの公開対談を実施致します。この対談は、市民主導で一冊の書籍を作るというプロジェクトの一環であり、対談の様子はこのプロジェクトから刊行する書籍に収録するコンテンツのうちの一つとなります。今後、2回目、3回目のインタビュー、対談イベントも企画しており、同様に収録予定です。

<実施概要>

日時：9月29日（土）14時～16時

会場：山口情報芸術センターホワイエ

入場無料・申込不要

司会：吉岡 洋（よしおか ひろし：哲学者／京都大学大学院文学研究科）

ゲスト：小笠原貞雄（おがさわら さだお：大内塗職人／桑原大内塗店）

主催：財団法人山口市文化振興財団

企画：山口情報芸術センター

1、「進化する伝統」—300年後の大内人形— 及びプレイベントについて

山口情報芸術センターでは、市民参加型事業「meets the artist」2007年度の活動として編集ワークショップ「一冊の本をみんなで作る」を6月より開始しました。京都大学大学院文学研究科教授の吉岡 洋（よしおかひろし）氏をアーティスト、編集長としてお招きし、情報の「編集」という概念を考えながら、吉岡氏とゲストとの対談を柱として書籍を編集、来年出版する予定です。

3回シリーズを予定する公開対談収録の第1弾として、今回は山口市道場門前にある桑原大内塗店の大内塗職人、小笠原貞雄（おがさわらさだお）さんをゲストに、「進化する伝統」をテーマに経歴や苦労話、大内塗に対する熱い思いなどを交えつつ語っていただきます。一口に伝統といっても、人から人へと伝わっていく技術や情報は、その伝達の過程で、常に編集され続けていると言えます。伝統における「情報の編集」の意味に迫る、ユニークな対談イベントです。

大内塗はそもそも実用的な椀、盆、箸など日用品の製造が主でしたが、その間に作られていた大内人形が今では実用的な漆器を上回る需要を生み出しています。私たちは大内塗や大内人形が大内時代の昔から同じような形をしていたように、ずっと変わらないもののように伝統を理解しがちですが、それはむしろ伝統の持つ可能性を低く見ているに過ぎないのかもしれないかもしれません。今回のインタビューで伝統を受け継ぐ際に起きる情報の「編集」、大内塗から垣間見える「進化する伝統」についての話が引き出されればと思います。

また、対談の公開収録を通して、市民の方にも企画アイデアから口頭でのインタビューに、原稿化され実際に手に取ることのできる書籍になっていくプロセスを実際に見ていただければと思っています。会場からの質問も、完成した本に収録されているかもしれません。

プレイベント：小笠原氏 VS 吉岡氏ボウリング対決

日時：9月28日（金）（時間未定）

会場：ボウリングの森（山口市泉町9-1）

概要：今回対談される小笠原貞雄さんはボウリングの名手でもあります。伝統を担う職人さんであることとのギャップから、ボウリングをしている様子を書籍内のビジュアルページに使うことを予定しており、その写真撮影を行います。取材希望の方は問合せ先までご連絡ください。

講演者 略歴

吉岡 洋（よしおかひろし）

昭和 31（1956）年生まれ。京都大学文学部哲学科（美学専攻）、同大学院修了。甲南大学教授、情報科学芸術大学院大学（IAMAS・岐阜県大垣市）教授を経て、現在京都大学大学院文学科教授。著書に『情報と生命』（新曜社・室井尚氏との共著）、『＜思想＞の現在形』（講談社選書メチエ）など。京都芸術センター発行の批評雑誌『D i a t x t .』（ダイアテキスト）1～8号までの編集長を務める。展覧会企画として「SKIN-DIVE」展（1999年）、「京都ビエンナーレ 2003」、「大垣ビエンナーレ 2006」など。専門の研究のみならず、展覧会の企画・運営、雑誌の編集など、現実社会のフィールドで活躍する哲学者。

小笠原貞雄（おがさわらさだお）

昭和元（1926）年、広島市生まれ。昭和 20（1945）年、広島で原爆に遭い山口へ。同年、桑原大内塗店に入所し、桑原宇之助氏に師事。実用的な漆器づくりの合間に作られていた大内人形を現在の形に作り上げた義父および妻の意匠と製作所を受け継ぎ、現在に至る。昭和 34（1959）年、皇太子殿下（現天皇陛下）に御成婚記念品を献上。昭和 53（1978）年には第 2 回全国伝統的工芸品展で山口県知事賞を受賞したほか、日本民芸協団・日本工芸館に複数回入選、平成 4（1992）年と 18（2006）年には伝統的工芸品産業功労者表彰を受けた。また、ボウリングの名手として中国地域の各大会に出場。数々のタイトルを獲得している。

〈meets the artist〉シリーズについて

「meets the artist」とは、ひとり、あるいは一組のアーティストが年間を通して市民と協働して創造的な活動を行うプロジェクトのシリーズです。

山口情報芸術センターでは 2003 年の開館前プレイベント時期から「山口アートマネジメント隊」と題して市民にほぼ 1 年間、継続的にアーティストと活動できる機会を提供してきました。1 日や数日で終了してしまうワークショップ

では経験できない、創造的な試行錯誤や問題解決のプロセスに出会うことで、アーティストのユニークな視点や考え方にじっくりと関わるとともに、アーティストの目線を通して改めて自分たちの住む山口という街について捉え直す機会ともなり、大変好評を博しました。

この流れを汲み、センター開館後も「meet the artist」シリーズと題しての長期ワークショップを継続的に実施しております。

2004 年度	佐藤時啓氏「カメラオブスクラプロジェクト」(ピンボールカメラでパノラマ写真を撮影し、展示)
2005 年度	フタボンコ「記念日カレンダー」(市民から思い出の写真を募り、カレンダーを制作、販売)
2007 年度	meets the artist 2007 編集ワークショップ「一冊の本をみんなで作る」(市民主導で、一冊の書籍を出版する)

〈meets the artist 2007 編集ワークショップ「一冊の本をみんなで作る」〉 について

アーティストとして、芸術の哲学的研究のかたわら、積極的に展示会や雑誌編集などの活動にも関わっている京都大学大学院文学研究科の吉岡 洋教授を招き、「編集」をテーマに企画、対談、記事執筆などを行い、1冊の本を編集、出版していきます。

6月23日、本センターで開催した吉岡氏によるアーティストレクチャー「編集的脳みその獲得」には約100人が集まり、大学での研究や講義、雑誌編集、アート展覧会企画などの活動に共通する「編集的思考」について話を聞きました。その後、市民コラボレーター(協働作業員)として約40人が名乗りを挙げ、市民コラボレーターチーム「編脳研」を結成。これより、吉岡氏とゲスト講師の対談を企画、収録、原稿化、編集を行っていきます。

過去の活動は活動ブログを (<http://meets2007.ycam.jp/>)

2、〈市民コラボレーターチーム「編脳研」〉について

大学生からデザイナー、編集者、コンピュータ技術者、マスコミ、アート愛好者、郷土史に詳しい年配の人まで多種多彩な人が集まった meets the artist 2007 編集ワークショップ市民コラボレーターチーム。

吉岡氏のレクチャー「編集的脳みその獲得」に、「脳みそ」のうちでもメカニカル、機械的、合理的な「脳」の部分と、ファジーで情緒的な「みそ」の部分の違いという話が出てきました。その話から「編集的脳みそ研究会」という名前ができ、略称の「編脳研」をチームの名前として使用しています。

「編集とはいわば、『共存』のテクノロジーです。いろんなイメージやテキストをただ集めるのではなく、それらを組み合わせデザインすることで、元の素材が持っていなかった新しい情報が、そこから生まれてくるようにすることです。」 —— 吉岡 洋 ——

お問い合わせ

山口情報芸術センター 小滝・会田

〒 753-0075

山口県山口市中園町 7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

email: meets2007@ycam.jp

※今回のちらし・リリースは、市民コラボレーター「編脳研」の方が作成されました。